

07

リビングフィールド

2024年
10月



スオスダイ！ (こんにちは)

主の御名を賛美いたします。私たちは2015年3月に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招へいを頂き、主の導きとみ言葉によってカンボジアの地で宣教活動を継続しています。

カンボジア帰任

皆さまのお祈りにいつも感謝しています。8月頭にカンボジアに帰任し、早くも2カ月が経過しました。この期間、神様が数々の祝福の出来事を起こして下さいています。

カンボジアは現在雨季の後半ですが、例年よりも明らかに雨が多いです。従来の子午後のスコールだけでなく、日本の梅雨のように朝から雨が続く日もありました。明らかに以前とは気候が変わってきています。以下、8月と9月の教会での出来事を中心に伝えたいと思います。



カンボジア帰任後最初の礼拝で（8月11日）、日本での恵みを教会の皆さんに分ち合いました。

2カ月ぶりの CBUオフィス教会

8月11日日曜日、約2カ月ぶりにCBUオフィス教会へ戻ってきました。車が教会に到着するやいなや、子どもたちが手荒く出迎えてくれました。この2カ月間、私たちの代わりに8人のユース（青年）たちが日曜学校をリードしてくれました。賛美歌や聖書のお話、礼拝中のめり絵、色鉛筆の準備などです。礼拝では、賛美のリードにも立つなど、奉仕を積極的に担ってくれました。青年たちに心から感謝します。



教会で出迎えてくれた子どもたち

あなたはわたしの魂を死から わたしの目を涙から わたしの足を突き落とそうとする者から
助け出してくださった。命あるものの地にある限り わたしは主の御前に歩み続けよう。

詩編 116：8-9

その8人のコースたちと、礼拝後に簡単なミーティングを行い、これから教会でどんな活動をやりたいかを話し合いました。このような話し合いの場を持ったのは初めての事です。これまで行ってきた日本語クラスに加え、ギターやキーボード、カホン（ドラム）などの楽器をやってみようという青年たちが多いことがわかりました。ですので、近いうちに「ミュージッククラス」を始めたいと思っています。



教会のコースたちとミーティングをしながら意見交換

紙芝居に釘付け

9月の日曜学校にて、紙芝居を使って聖書のお話をしました。左の写真の紙芝居用木製フレームと聖書紙芝居は、この夏、とある日本の教会が献品してくださったものです。私たちがずっと、祈り求めていたものが、ついに与えられました。

これまで、聖書のお話の絵をプリントアウトして、紙芝居風に伝えていました。しかし、木のフレームがあると子どもたちの反応が全く違いますし、雰囲気も違います。



紙芝居フレームを聖書のお話をしました。

木のドアを開くと、子どもたちは「どんな話が始まるんだろう」と、期待にあふれる表情で、食い入るように見てくれました。紙芝居の1つ1つの絵からは、温かみと親しみ、優しさがにじみ出ているようでした。そんな絵柄から放たれる豊かな絵本の世界を、子どもたちは楽しんでいました。献品してくださった教会の皆さまに心から感謝いたします。



子どもたちは、食い入るように見てくれました。

音楽クラス、スタート！



はじめてのリコーダー。簡単な音から練習。

歌詞をクメール語に翻訳して、現在日曜学校で子どもたちが練習しています。その同じ曲を、青年たちは楽器での演奏にチャレンジすることにしました。みんな、初めて触る楽器に、最初は少し戸惑い気味でしたが、すぐに慣れました。みんな、それぞれの楽器の練習に、とても楽しそうに取り組んでいました。

9月1日の主日礼拝後、新たに「音楽クラス」がスタートしました。楽器は、定番のリコーダーに加え、ギター、ピアノ、そして木琴です。リコーダーとピアノは以前、日本の教会から献品されたものです。更にこの夏日本で、とある教会が木琴を献品して下さいました。みんなで取り組む課題曲は、この夏、とある教会で紹介いただいた賛美です。



献品された木琴と、ピアノの練習に励んでいます。



ギターを教え合うユースたち

近い将来この曲を、子どもたちが歌と踊りを、そして奏楽をユースたちが担当し、特別賛美を披露できることを祈っています。更に、このメンバーが賛美演奏チームとなり、ユース中心の礼拝につながっていくことを願っています。この日、広い礼拝堂に4種類の楽器の異なる音色が響きわたりました。

楽器を献品して下さった教会の皆さま、本当にありがとうございました。ユースたちが楽しみながら上達して行けるように、お祈りいただければ幸いです。

IJCS ミッショントリップ

IJCS（シンガポール日本語国際教会）から、伊藤世里江牧師と、教会員のエステルさんがカンボジアを訪問してくださいました。5泊6日の滞在中、ミニストリー「希望の糸」へ参加、教会員の家庭訪問、キリングフィールド近くの集落訪問など、お二人は久しぶりに訪れたカンボジアで、毎日精力的に活動されました。伊藤先生は私たちに、「ニュースレターや報告会である程度は状況を知っていたけれども、やっぱり、実際に来ないとわからないことがたくさんある」と伝えて下さいました。



集落を訪問し、住民や子どもたちと交流をされる伊藤先生（向かって右）とエステルさん（左）

日曜日にはもちろん、CBUオフィス教会の主日礼拝に参加され、証しや子どもメッセージの奉仕を担ってくださいました。日本語クラスでは、日本語を学んでいる子どもたちが早速、お二人に「こんにちは!」「はじめまして!」と、ここぞとばかりに、習った日本語で話しかけていました。

今回の訪問の中で、IJCS教会からの週末のみの短期宣教トリップなど、新しい構想も生まれてきています。シンガポールからたくさんの祝福を届けて下さった伊藤先生、エステルさん、本当にありがとうございました。



CBUオフィス教会の子どもたちと記念写真

女性支援ミニストリー「希望の糸」（マクラメアート）新デザイン、アンコールワットがついに完成しました。以下は完成に至るまでの経緯です。

夏の日本帰国を経て、8月から活動を再開しました。ケマさん、スレイモムさんと、「カンボジアらしいデザインのマクラメアートを作ろう」という話になり、新デザインはカンボジアのシンボル「アンコールワット」に決定しました。

早速、スレイモムさんが手書きでデザインを起こしてくれました。しかし、アンコールワットは複雑な形をしています。試作品を作ってみたところ、建物の輪郭（りんかく）とデザインを表現するのが難しく、新しい編み方を生み出す必要がありました。

「希望の糸」新デザイン アンコールワット完成



新デザイン、アンコールワットの作成に励むケマさんとスレイモムさん

また、左右の塔のバランスを取るのもかなり難しいです。3人で試行錯誤が続きました。

そんな中、神様が難しい部分の編み方をはっきりと示してくださり、塔の部分とうまく編むことができました。そして、約2週間の試作期間を経て、アンコールワットの形をマクラメ編みで表現することができました。神様の助けと導きに感謝します。

先日カンボジアを訪問された、IJCS教会が早速購入してくださいました。また、9月に行われた、カンボジアバプテスト神学校、卒業式の記念品としても購入いただきました。



(左) スレイモムさんが起こしてくれたスケッチ
(右) 完成後、早速壁に飾ってみました



ラッピングまで完成した新デザインの製品を手にかまさん(左)、スレイモムさん(中央)と

今後、アンコールワットデザインの「希望の糸」を、一人でも多くの方々に手に取って頂けることを祈り願っています。また、今回マクラメ製品に色味(いろみ)が欲しいというリクエストと、飾るだけではなく、バッグなど、実際に使えるマクラメが欲しいという要望もいただきました。それらの試作も始まっています。覚えてお祈りいただければと思います。

小倉(おぐら)小学校訪問

9月下旬、カンボジアの公立小学校「小倉(おぐら)小学校」を訪問しました。キリングフィールドのすぐ隣にあるこの小学校に、教会の子どもたちの多くが通っています。子どもたちを通して、私たちはこの小学校のことを、かなり前から知っていました。しかし、名前に「おぐら」という日本人の名前がついていたことは、最近まで知りませんでした。教会員によれば、「小倉さん」という方が、この学校の設立を支援したから、その名前がついたのだろう、とのことでした。



小倉(おぐら)小学校の正面玄関。
キリングフィールドから100mほど



学校の近くに来た私たちの姿を見つけ、
駆け寄ってきた日曜学校メンバーの子どもたち

プノンペンには、日本人の支援によって建築された学校はたくさんあります。大抵、そのような学校の校舎には日本の国旗とカンボジアの国旗が並んで描かれています。しかし、日本人の名前がついた学校は今まで聞いたことがありませんでした。「小倉小学校」を知って以来、私たちはずっとこの小学校を一度訪問したいと思っていました。先日、教会員のケマさんが校長先生に連絡を取ってくださいさり、ようやく訪問が実現しました。



小倉小学校の校舎の様子

校長先生に、「小倉」という名前を学校につけた理由を聞いてみました。校長先生によれば、「前任の校長先生の時だから詳しくはわからないけど、小倉さんが本当に多くの支援をしてくれたから、感謝の気持ちからでは」とのことでした。残念ながら、小倉さんは既に亡くなられたようで、それ以上詳しいことを校長先生は知りませんでした。

キリングフィールドのすぐ隣にあるこの小学校に、神様が宣教の御計画を持っておられることを私たちは信じています。どうぞ、覚えてお祈りいただければと思います。

敷地には大きな校舎が2つあり、その1つが小倉さんの支援によって、1998年に建てられたとのことでした。もう1つの校舎は別の日本人の支援です。その他、日本の支援によってブランコが立てられたり、オーストラリアのNGOがゴミ箱を寄付したりと、現在でも支援や寄付が続いている学校です。そのおかげもあって、施設が他の公立小学校よりも明らかに充実しています。生徒数も1500人ととても多いです。ただ先生が18人と、生徒数に対してとても少ないです。そこには様々なカンボジアの背景がありそうです。



校長先生（中央）、教頭先生（左）と記念写真



マレーシアの賛美を教えてもらう子どもたち

日曜学校では、マレーシアの賛美を子どもたちに教えて下さいました。また、礼拝では証しを、日本語クラスでは、ゲームを通して子どもたちに日本語を教えてくれました。盛りだくさんな内容に、子どもたちは皆、とても楽しそうでした。

日曜学校で、メンバーの一人が子どもたちにこんな質問をされました。「カンボジアについて、誇りに思うことは何ですか？」子どもたちの答えは、「アンコールワット!!」。アンコールワットは、カンボジアの子どもたちにとっても、大切な、自分たちの国の誇りであることを知り、感慨深い思いでした。今回教会を訪問してくださり、子どもたちに祝福を届けてくださったCFFチームの皆さんに心より感謝いたします。

CFFジャパン CBUオフィス教会訪問

CFF (Caring for the Future Foundation) ジャパンより、5名のチームがCBUオフィス教会の礼拝に参加されました。CFFは日本をはじめ、フィリピン・マレーシア・ミャンマーの3ヶ国に拠点があるNGOです。厳しい立場に置かれた子どもたちのために、ワークキャンプやスタディツアーを開催されています。日本からもたくさんの青年が参加されています。今回、カンボジアでのワークキャンプ開催の準備のために、チームの皆さんがプノンペンを訪問し、私たちの教会にも来て下さいました。



日本語クラスでは、ゲームを通して子どもたちと交わりを持って下さいました。

来主と栄主の学校生活

来主と栄主は、プノンペン市内の「ホープインターナショナルスクール」に通っています。8月から新学期がスタートし、来主は高校1年、栄主は中学1年にそれぞれ進級しました。

来主は昨年度から2年コースの国際的な学習カリキュラムが始まっています。選択科目が増え、昨年度以上に勉強が忙しくなっています。一方の栄主は、今年から新たにスペイン語の学びが始まるなど様々な変化があり、宿題も増えているようです。来主は2年コースの最後、来年5月にコースの最終試験を控えています。どうぞ覚えてお祈りください。



バレーボール部の来主
試合後にチームメイトと集合写真
(前列一番右が来主)

ホープスクールには、中学部、高校部それぞれスポーツ活動があります。通年で1つのスポーツを行うのではなく、3カ月ごとにバレーボール、バスケットボール、サッカーを行います。8月から9月にかけて、高校部の来主はバレーボール、中学部の栄主はバスケットボールクラブで活動を行いました。それぞれ、練習試合や親善試合で昨年以上の出場機会を得ています。

来主、栄主共にサッカーが一番好きで得意なスポーツですが、バレーボールやバスケットボールでもチームワークの大切さや、上達の楽しさを見出しています。皆さまのお祈りによって、学び、スポーツ活動共に守られていることを心より感謝いたします。



バスケットボール部の試合で
相手チーム選手に向かっていく栄主

<祈りの課題>

1. CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって更に成長するように。
2. キリングフィールド近くの集落と教会付近の地域が、福音によって変えられるように。
3. 女性支援活動「希望の糸」新デザイン「アンコールワット」が広がっていくように。
4. 小倉（おぐら）小学校の先生方、子どもたちと関係を構築してゆけるように。
5. 宣教活動と生活、子どもたちの学費などの経済的必要が、全て満たされるように。

嶋田 和幸・嶋田 薫 (CBU宣教師)、来主 (くろす、15歳)、栄主 (えいす、12歳)

(連絡先) Eメールアドレス

dekakurosu3927@gmail.com

携帯電話：050-5435-4350 (日本から発信可)

(献金振込先) 楽天銀行 ノエル支店 (支店番号 246)

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

